

授業改善書

科目名	経営組織論
担当者	大江 清一

授業の概要

本講義では経営組織論の基礎を修得する。経営組織論を理解するためには、経営学総論、経営管理論を履修しておくことが望ましい。経営組織論は、いかなる組織に所属する場合でも応用可能な理論である。

経営組織に関する研究は、経営学のみならず経済学、社会学等多くの分野に近接する学問領域であるので、多角的な視野から講義のテーマにアプローチする。

学んだ知識をもとに日本経済新聞や経営関連誌を自主的に読み進めることは、経営組織論を効果的に修得する秘訣であり、講師は強くこれを奨励する。

授業の問題点

- (1)「授業アンケート集計結果」を踏まえた授業の問題点は、予習復習を奨励することと、講義中の質問を懲滞することである。
- (2)経営組織論の講義構成は、全講義時間 90 分を、前回講義の復習:20 分、今回講義:65 分としている。したがって、前回講義をやむなく欠席した学生にキャッチアップの機会を与え、前回講義出席者には復習機会を与える構成となっている。
- (3)この配慮に学生が依存しているとすれば、講師が意図していることと異なるため、講義中に予習復習を自主的にを行うことの重要性を強調する。

学生の授業満足度

- (1)学生の授業満足度は「4.53」と前年度の「4.41」と比較すると改善したが、これは誤差の範囲であると認識して引き続き向上を目指すことが必要と考える。要改善点は、①授業外学習を促す努力が不足していたこと、②実務経験に根差した実例をより多く示すこと等がある。
- (2)上記 2 点を反省し、授業外学習や講義中の発言等を積極的に求めていきたい。

授業改善の課題と方策

【講義内容のレベル】

- (1)経営組織論は基礎からしっかり学ぶことが重要であり、社会人となった場合に最も有用な内容を含む分野であると考ええる。
- (2)レジメには図表を取り入れてわかりやすさを重視した工夫を凝らしてはいるが、さらにアイキャッチを強化する等、教材のプレゼンテーションに継続して改善を加える。
- (3)実務経験に根差した経営組織上の問題点等を多く取り入れるにあたっては付属資料を示してリアリティを出す工夫を行う。学生の反応は良好であったので、レジメの予習、復習だけでなく、関連する経営に関する時事的な興味を抱かせることには効果があったと考える。

その他

- (1)評定方法に関する受講者のコメントはなかったが、学期中 3 回の理解度テストは来学期も引き続き実施する。
- (2)「授業内容に興味や関心を持ちましたか」という質問に対する評価点は「4.3」と前年度の「4.0」から若干改善した。次年度も引き続き改善を図る。